



みつくら



《 北米産大豆 》

19/20年 世界及び米国大豆生産予測・需給予測

米国農務省が10日発表した今年初めての19/20年度の米国大豆生産・需給予測によれば、作付意向面積8,460万エーカーをベースに、収穫面積を8,380万エーカーと予測し、さらに平年単収49.5ブッシェルを当てはめると、生産量は41億5,000万ブッシェルとなり、過去3年の数値を下回る減産見通しとなっています。

需要量予測は、搾油量は強い大豆ミール需要を反映して前年を上回り、輸出も米中貿易摩擦のあおりで減少した前年から回復見通しとなっています。

また、同日発表された世界大豆生産高予測は、前年比1.8%減の3億5,566万トンとなっています。主要国では米国が1億1,295万トン、アルゼンチンも5,300万トンと前年を下回りますが、ブラジルは1億2,300万トンと増加見通しにあり、さらに中国やパラグアイでも増加予測となっています。

世界大豆需給予測は、生産高と需要が相殺される形から、期末在庫は期初在庫と同水準の1億1,309万トンと予測しています。

19/20年産 世界大豆生産・需給予測

生産量	3億5,566万t	(対前年比	1.8%減)
消費量	3億5,542万t	(対前年比	2.4%増)
期末在庫量	1億1,309万t	(対前年比	0.1%減)
期末在庫率	31.8%	(対前年度差	0.8ポイント減)

19/20年産 米国大豆生産・需給予測

生産量	1億1,295万t	(対前年比	8.7%増)
消費量	6,109万t	(対前年比	0.7%増)
輸出货量	5,307万t	(対前年比	9.9%増)
期末在庫量	2,641万t	(対前年比	2.5%減)
期末在庫率	23.1%	(対前年度差	1.7ポイント減)



○19年産米国大豆作付率39%、発芽率19%と大幅な遅れ—米農務省

米農務省が3日発表した6月2日現在の米国大豆作付率は、主要18州平均で39%（前週29%、前年86%、平年79%）と平年比で40ポイントの遅れとなっています。イリノイ、アイオワ、ミネソタなど主要産地で大幅な遅れが見られています。

同日現在の米国大豆発芽率は、主要18州平均で19%（前週11%、前年65%、平年79%）と平年比で37ポイントの遅れとなっており、進捗率がまだ10%台の州が目立つ結果となっています。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>



みつくら



《 国産大豆 》

○平成30年産国産大豆入札情報

日本特産農産物協会は平成30年産大豆の5月の入札結果を発表しました。

それによると、上場数量3,583トンで、落札数量が3,106トン、落札率は86%という結果となりました。平均落札価格は、60kg/9,696円となり、平成30年産の入札が始まって以来、6ヶ月連続の値上がりとなりました。

普通大豆の銘柄別では、北海道ユキシズカ小粒は1万9,740円、ユキシズカ極小粒は1万5,352円と前月より値下がりしたものの、依然として高値で落札されています。

入札終盤を迎え、落札率は90%に近く、価格も徐々に上昇しています。6月の上場数量は3,400トンが予定されていますが、端境期に向けて落札率は高止まりするのではないのでしょうか。

入札月	上場数量	落札数量	落札率
18年 12月	2,338 t	1,059 t	45%
19年 1月	5,897 t	2,931 t	50%
19年 2月	6,266 t	3,624 t	58%
19年 3月	5,432 t	3,600 t	66%
19年 4月	5,261 t	3,768 t	71%
19年 5月	3,583 t	3,106 t	86%
合計	28,777 t	18,088 t	63%

《 トピックス 》

○19年産カナダ大豆作付11%減を予想、相場軟調と西部の土壤水分不足で

カナダ農務・農産食品省がこのほどまとめた同国の穀物・油糧種子の生産量によると、大豆の作付面積は11%減の229万ヘクタールとかなりの減少見通しとなっています。

軟調な大豆相場とカナダ西部の土壤乾燥を反映したもので、このため生産量は単収減を合わせて11%減の650万トンを見込んでいます。

○温暖化で大豆の単収に悪影響、年間60億ドルの被害

農研機構はこのほど国立環境研究所、気象庁気象研究所と共同で、大豆や米といった主要穀物の平均単収に1981年からの30年間で地球温暖化が世界に与えた影響を評価しました。

それによると、温暖化により大豆の単収は4.5%低下したと推定され、金額換算では年間60億ドルに上る損失との見解を示しています。温暖化による穀物生産への被害は現実のものとなっており、その対応策の開発や普及は急務との見解を示しています。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>